

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム令和元年度第1回運営委員会議事要旨

- 1 日時：令和元年10月25日(金)12時15分～13時25分
- 2 場所：関西大学梅田キャンパス KANDAI Me RISE 7階705教室
- 3 出席者：林(会長)、甘利(副会長)、岡島(清水副会長の代理)、佐波、飯野、長瀬、安部(永井委員の代理)、緒方、岡部(池田委員の代理)、Li、遠藤
陪席者：平岡(セコム)、前田(大日本印刷)、竹下(産業技術総合研究所)、中島(防災科学技術研究所)、前山(〃)、石濱(筑波大学)
事務担当：大塚(筑波大学)、秋葉(〃)、松原(〃) (敬称略)

4 議事

【審議】

- (1) 事務運営に関する申合せについて(案)(資料2)

遠藤委員より、資料2に基づき、これまでコンソーシアムの運営に係る経費については筑波大学が拠出し運営しているが、事務局を筑波大学に置いていることから、本コンソーシアムの予算の管理・執行は筑波大学で行うことを明確にした申合せである旨の説明があり、承認された。なお、今後旅費支払いの基準についても加筆を検討する旨説明があった。

- (2) その他
なし

【報告】

- (1) Joint Seminar 減災との共同シンポジウムについて(資料3)

遠藤委員より、資料3に基づき、令和元年10月25日開催予定の共同シンポジウムおよびレセプションの次第、事前登録状況について説明があった。

- (2) 令和元年度第2回幹事会(R1.7.22)について(資料4)

遠藤委員より、資料4に基づき、令和元年度第2回幹事会の議事について報告があった。

- (3) 令和元年度第3回幹事会(R1.9.30)について(資料5)

遠藤委員より、資料5に基づき、令和元年度第3回幹事会の議事について報告があった。

- (4) 筑波会議2019サブセッション開催報告について(資料6)

遠藤委員より、資料6に基づき、令和元年10月3日に開催された筑波会議2019において、セコム、防災科研、NCDR、筑波大学が協働してサブセッションを開催した旨報告があった。なお、資料6-2のSession Reportは後日筑波会議2019サイトに公開されるとの補足説明があった。

(5) 協働大学院に関する協定について（資料 7）

遠藤委員より、資料 7 に基づき、令和 2 年度のリスク・レジリエンス工学学位プログラムの設置が文部科学省に認可されたこと、およびこれに伴い締結する協働大学院に関する協定について対象参画機関と具体的な検討に入ることについて説明があった。なお、次の意見交換があった。

- ✓ （竹下氏）産業技術総合研究所は連携大学院に関する協定を準用するため新たな協定締結は不要だが、協働大学院方式による学位プログラムの設置通知書が必要であるため発行していただきたい。
→（秋葉氏）対応する。

(6) リスク工学専攻主催「第 184 回リスク工学研究会」開催について（資料 8）

遠藤委員より、資料 8 に基づき、リスク工学専攻が主催する「第 184 回リスク工学研究会」において、コンソーシアム参画機関に所属する博士の学位を持つ方による講演会を開催する旨説明があった。なお、今後もコンソーシアム参画機関に所属する博士の学位を持つ方から講演をいただきたい旨依頼があった。

(7) 卓越大学院プログラムについて（資料 9）

遠藤委員より、資料 9 に基づき、文部科学省が公募する卓越大学院プログラムに筑波大学が申請を検討中であり、学内ヒアリングにて、本コンソーシアムを中核とした新たなリスクレジリエンス卓越コンソーシアムが運営母体となる教育プログラムを提案中である旨説明があった。なお、次の意見交換があった。

- ✓ （佐波委員）各機関が卓越コンソーシアムに入会する手続きは必要か。本コンソーシアム自体が卓越コンソーシアムに参加するということなら入会手続きは必要ない。
→（石濱氏）コンソーシアム自体が卓越コンソーシアムに参加することを想定しているため、各機関の入会手続きは不要。
→（遠藤委員）入会手続きが必要であるという機関があれば対応する。
- ✓ （安部委員代理）授業の負荷は増えるか。
→（遠藤委員）授業数は変わらないが、一授業あたりの履修者数は増える。研究指導学生は増える可能性があるが、出願前に指導を引き受けるかどうかを判断いただくことができるため、学生を必ず受け入れなければならないというものではない。
- ✓ （甘利副会長）本プログラムは終わってから自走しなくてはならないとのことだが、自走とはどのような概念か。
→（石濱氏）文部科学省からの支援期間が終わった後に引き続き大学が独自予算により運営するという概念である。

(8) その他

- ✓ 遠藤委員より、協働大学院教員の追加について提案があれば事務局までご連絡いただきたい旨説明があった。

- ✓ 遠藤委員より、コンソーシアム参画機関所属者向けのリスク・レジリエンス工学学位プログラムリーフレットについて紹介があり、後日各参画機関に 100 部ずつ送付するので広報に活用いただきたい旨依頼があった。
- ✓ 遠藤委員より、筑波大学リスク工学専攻において客員教員に出席いただきたい会議等について説明があった。なお、次の意見交換があった。
 - （佐波委員）客員教員と協働大学院教員はどう違うのか。
 - （遠藤委員）大きな違いはない。現在のリスク工学専攻は協働大学院方式ではないため客員教員という名称だが、2020 年度設置予定のリスク・レジリエンス工学学位プログラムでは協働大学院教員という名称に変更になる。
- ✓ 竹下氏より事務局に対し、年度当初に当該年度分の運営委員会委員・陪席者を委嘱すれば、行事ごとに出張依頼手続きが発生せずに済むため、来年度からの対応を検討してほしいとの依頼があった。検討の結果、来年度以降は、参画機関から特に要望がない限り年度当初にまとめて委嘱することとなった。

以 上